

D-14 乳児期の肥満について

別府大短大 本荘 延子

1. 最近肥満児の増加が社会的に大きな問題となっている。これに対する研究や対策なども色々と発表されているが、乳児期の肥満に対する研究はあまりみられないようである。そこで演者は、乳児期の肥満について種々調査検討し、その原因、対策などについて、2～3の知見を得たので、これを報告する。

2. 対象：別府保健所で応診した昭和38年より43年までの6年間の出生児。別府保健所管内の年間出産数やく1500名、そのうち応診乳児数やく500名。

調査：カウプ指数20以上の者を肥満児とし、それらの乳児の栄養種別、栄養摂取量、母親の体格との相関、および年次別肥満児数の変化をみた。

なお、直接その家庭を訪問してその後の肥満状態、罹病、死亡等の追跡調査をした。

3. 1) 肥満が始まるのは主として生後3カ月頃から5カ月頃までの間である。

2) 母乳栄養児より人工栄養児が圧倒的に多い。

3) 乳の摂取量は1回200cc以上の者が多い。

4) 母親の体格との相関が大きい。

5) 年次が進むにつれ、肥満乳児が増加している。